

JSCインターン講座①（青森会場）レポート

平成 19 年 5 月 26、27 日

青森県 O. S (JSC 準会員)、T. H (JSC 正会員)

新緑萌える季節を迎えた青森で JSC インターン講座が開講され、講師には阿知波先生（熱狂的な中日ドラゴンズファン）に愛知県から多忙の中をお越し頂いた。日頃の臨床において、カイロプラクティックの基本中の基本を学習したいという会員、準会員、ピジター受講者がこのインターン講座を受講した。

講座の最初に日頃の治療に対しての（治療内容の満足度など、基礎医学・技術を実際に患者に対して効果的に応用しているか、）アンケート調査。

JSC の最も重視している基本理念の『考える力を養う』。単にマニュアル通りに検査・治療を進めるのではなく何故、痛くなったのかその理由を追求することが大切。



カイロプラクティック・トライアングル

- 1、身体構造（バイオメカニクス）
 - 2、栄養（ケミカル）
 - 3、精神（メンタル）
- を考える。

カイロプラクティックの限界を知る。

80% 不治 20% 治る → どうしようもない。

20% 不治 80% 治る → 何とかなりそう。

アンケート内容より検査（筋力テスト）が上手くできるか？技術及び知識はあるか？知識と経験を積んで勉強をする。ただ、テクニックを患者に使うのではなく、『患者に合ったテクニックを使いなさい。』（故・Dr. ジェンシー元ナショナルカイロ大学学長談。）

阿知波先生の治療に関する経験談は日頃、我々が遭遇することと共通しているところも多く、大変勉強になった。

まず、第一回は基本的検査。痛みに対しての分析の仕方を勉強する。検査には問診、視診、触診、筋力テストなどがあり、どういう手順で治療を進めていくか、その指針となる重要な手がかりである。痛みの原因が代償の代償による2次的、3次的な痛みで的を絞れないものもあるが、（過去のケガ、病気が別のかたちで痛みを出すことがあるので問診は大切）基礎医学＋バイオメカニクス＋AK＋カイロプラクティック→総合的判断をして痛みの原因を探求できるよう学習、経験を積む。

1) 問診とカルテ執り

問診の後、患者の皮膚の色つや、むくみ加減、見た目での身体のねじれ、高い低い、大きい小さい、などは視診として捉えるが、その前に患者が院の玄関から入って来る時から治療室に入るまでの動作、姿勢、歩行状態、人相、服装などから感じ取る雰囲気も情報源となり、すでに視診は始まっている。例えば、第一印象から神経質タイプで歩き方から腰痛がありそうな患者さんだとか予想する。カルテ（予診票）は医療事故の防止の意味も含め患者の状態を知る。また、後々患者との信頼関係を築くためにも大切で正しい情報を得ることにより、誤診を回避できる。受講生が2人ペアで術者と患者の立場になり講座資料による練習用カルテの項目に沿

って問診を進めていく。(制限時間15分)

①いつ、②どこで、③ なにをして、④痛む箇所？痛み方？

主 訴 について

講座テキスト練習用問診票、全項目を聞く。(例 首は首のみ)

副 訴 について

講座テキスト練習用問診票、全項目を聞く。(例 腰は腰のみ)

※患者さんによっては症状が複数ある場合は、問診の途中で始めは首に関して話していたのに、そこに腰の話が混ざってくる場合があるので、首に関するものは首だけに、腰に関するものは腰だけに的を絞って話をしていただけるように上手に指示・誘導する。

例えば、交通事故による原因の場合、車輛の大小(トラックと軽自動車では重量が違う。)、高低速度、前方の衝突か後方の衝突か?など条件により損傷度がかなり違って来る。患者が専門医に受診もせずにかつてに自分に病名をつけている場合は鵜呑みにしない。(カルテ上では?にておく。)また、過去に受診して病名がつけられても現在、必ずそうとは限らない。

関連痛・・・〔例〕胆のう → 背中 ～右脇腹痛

放散痛・・・〔例〕首、肩 → 手指の痛み

精神的ダメージ(ストレス) → 内臓機能低下 → 筋、骨格系の痛み

2) オーソペディックテストと 筋力テスト

症状により各オーソペディックテスト及び筋力テストをリストアップして検査をする。その前に基本的知識として筋肉とその支配神経のバイオメカニクスを知らなければならない。患者との間合いや呼吸が合わないとエラーが発生し、熟練を要する。

以上の問診、各検査が正確に行われることよりの確な判断ができ、治療の組み立ても出来よう。カイロプラクティックのビギナーにとっては慣れない筋力テストに戸惑い、患者操作が上手くできないのと筋肉やその支配神経のバイオメカニクスの基礎知識が浅いため、より深い基礎の習熟が必要。今回のインターン講座を受講してビギナーの受講生には次回の第2回インターン講座までの宿題となった。ついテクニックに走る傾向はあるが、考えてみれば基礎医学あつてのテクニック。改めて基礎の大切さを教えられた講座であった。

1 日目は夜8時に終了し、講師の阿知波先生を囲みビアレストランで遅い夕食を受講生と共にした。その際もカイロプラクティックの話は尽きることなく、質問が飛び交った。そして、翌朝は講座会場に向かう車中でも副腎皮質、髄質機能と身体への影響について話が尽きなかった。阿知波先生の治療家(カイロプラクター)としての情熱が伝わってきた2日間であった。阿知波先生ご苦勞様でした。

